

203

こんにちは。塾長の大井です。

5期生受験戦記第8回です。夏からの忙しさに流され、久しぶりの更新となり申し訳ありませんでした。

夏期講習も終わり、今年の6年生（6期生）も他塾模試を戦う季節になりました。自分の課題を新たにした生徒、長い努力が実りついに結果を出し始めた生徒、それぞれが自信や悔しさを手に合格へと向かっていくことになります。

ただ、例年TOP生が伸びるのはここからです。ほぼ全ての生徒がここから力をつけ、結果偏差値よりかなり格上の学校の合格を勝ち獲っています。6年生の保護者の方々も、ぜひこれからのお子さんの成長と変化を楽しみに支えてあげてください。

TOP生がなぜここから強いのかという話を、この5期生受験戦記の中でも語りたいと思います。

前回、Uくんの葛藤と決断のエピソードを書きましたが、正念場での粘り強さや踏ん張る力は、TOPで受験を全うした多くの子に共通してい

る要素で、何もUくん一人に限ったことではありません。

「幼い」と言われ続けたTYくんにも、そんな強さを感じる場面がありました。

TYくんは本当に甘えんぼの、お子様ぶりの目立つ子でした。説明はただの単語や身ぶり手ぶりでしかできず、それを私にツッコまれては手をパタパタさせて、いつも笑い過ぎて涙を浮かべるくだけりがありました。みんなもそれを見て爆笑し、TYくんもまた笑い、要は彼はクラスのムードメーカーだったわけです。

そんなTYくんはTOPが大好きでした。面談の時も、TOPだけは絶対に休まない、どんな疲れていても、どんなに長い時間いても満面の笑顔で帰って来ますとご両親が話されていました。

長い中学受験の中では、体調管理も大切な実力の一つです。TYくんは元々頑強な方でしたが、ちょうど今頃（小6の夏明け）に一度だけ体調を崩したことがありました。その日、彼はお腹をこわして、きつそうなら途中で帰して下さいと連絡をもらっていました。いつもは嬉々として弁当を食べるTYくんが、休憩中、珍しく神妙な面持ちでお腹をおさえていました。

「TY、大丈夫か？」そう声をかけると、

「お腹痛い・・・」と苦しそうでした。周りが食事している中、ずっとお腹を押さえていました。

「TY、きついなら帰った方がいいぞ。」と言いましたが、TYくんは首を振ってただ「授業受ける。」と言いました。

その様子は明らかに苦しそうでしたが、結局彼は帰りませんでした。それどころか、授業が再開すると痛みを忘れたように血色を取り戻し、下手なりに精一杯発言し、授業に参加していました。(本当に合格したい受験生が、授業で体調回復する例は他にもたくさんあります。)

そんな普段とはかけ離れたTYくんの姿を見て、(この子はもしかしたら、人一倍強い芯を隠し持っているのかもしれない。)と感じ入りました。

そしてそんな私の予感を、後にTYくんは見事に証明することになるのです。

(第9回につづく)

2019年9月16日

大井 雄之